令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【土呂中学校】

① 今年度の目標と学力向上策

重点的に育成する資質・能力	(1)語句の意味や使い方を自分の言葉で説明する資質・能力 (2)課題の内容をふまえて、条件を整理し、根拠をふまえて記述する資質・能力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1)朝読書の実施や、ワークの活用、語句テストなどを行い、生徒が使える語彙を増やす。【通年】 (2)学習した言葉を振り返りシート等で活用できるよう、教員が例文を見せたり声かけを行う。【単元末】 (3)振り返りを記述で書かせ、書いた文章を他者の文章と比較したり、推敲する時間を設ける。【各単元の中で1回以上】

② 全国学力・学習状況調査結果の分析

特徴的な結果	学力面では、教科全体として、知識・技能の定着を問う基礎的な設問の正答率は、全国および県の平均と同等または上回る傾向が見られる。一方で、複数の情報を統合して根拠とともに記述・発信させる設問や、英語の「話すこと・書くこと」、数学の「思考・判断・表現」を問う大問において、正答率が平均を下回る傾向が確認できる。 授業への参加意欲や「CT端末の活用に対する前向きな姿勢は高い数値を出している。しかし、「自ら計画を立てて家庭学習に取り組む割合」や「自分の意見を根拠に基づいて相手に伝える自信がある」と回答した生徒の割合は平均を下回る傾向が見られた。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	定型的な解法や既習知識の再生はスムーズに行えるものの、未知の課題に対して思考プロセスを順序立てて構成したり、自分の言葉で表現・発信したりすることに難しさや抵抗感を感じている実態が窺える。 指示された活動には意欲的に取り組む一方で、自らの課題を見出して主体的に学びを調整する姿勢や、アウトプットに対する自己効力感が十分に高まりきっていない可能性が考えられる。

③ 中間評価

学力向上策の実施状況	評価(※)	(1)週4~5日の頻度で朝読書を行っている。また、国語とGSを中心に単語テストを行い、生徒の語彙の豊かさを増やす取り組みを行っている。 (2)振り返りシートを書く際に、例文を提示したり、語句指定などの条件をつけ、単語を文章にする練習を重ねている。 (3)スプレッドシート等の共同編集機能を活用し、自分の書いた文章と他者の文章を比較したり、参考にしや
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	特になし	

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(おおむね達成)　C 6割未満(あと一歩)

④ さいたま市学習状況調査結果の分析

特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤ 年度末評価

学力向上策の実施状況	評価(※)
⇓	
今年度の成果と次年度の課題	

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(おおむね達成)　C 6割未満(あと一歩)